

図書館展示7月●2004

Bill Evans(1929-1980)

ビル・エヴァンスを入り口に  
**ジャズ・ピアノを  
楽しもう!**

企画 ♪ 高田涼子 (国立音楽大学附属図書館閲覧参考部)

期間●7月7日-8月4日

場所●図書館ブラウジングルーム/AV資料室



ビル・エヴァンスが演奏している姿

# ビル・エヴァンスを入りに、 ジャズ・ピアノを楽しもう!

## はじめに

私がビル・エヴァンスを意識して聴いたのは、2年前の春でした。幼い頃から、ジャンルにとらわれず時代もこだわらず様々な音楽に触れてきました。それでも、クラシックを中心に国立音大でピアノを学んでいた私には、いわゆるジャズは少し理解しがたい存在でした。《A 列車でいこう》《テイク・ファイブ》《イン・ザ・ムード》《エンターティナー》など、有名で子供心にも楽しめるような曲は好きで演奏したりしていました。しかし、長くて複雑でメロディーを口ずさむのが難しいような演奏は、なかなかじめませんでした。

大学の図書館には意外にもジャズの資料が所蔵されていました。ジャズのスタンダード曲や、クラシックやディズニーなどの曲がアレンジされているたくさんの楽譜やCDに出合えました。何より、ビル・エヴァンスのアルバム『ワルツ・フォー・デビー』を聴いて、ジャズの見方が変わりました。少しずつですが、身体にすっと入ってくるようになったのです。

今回の企画は、ジャズに触れてみたいけどきっかけがなかった人に、ジャズの世界（特にピアノ）に入りやすいものを紹介したいと思います。私自身の知識が浅く、また好みが偏っている点もありますが、少しでもジャズに興味を持っていただければと思います。

## Contents

- ・ビル・エヴァンスについて……………2-5
- ・ジャズの歴史……………6-8
- ・ジャズ・ピアニストの紹介……………9-12
- ・ジャズ・ピアノ資料の紹介……………13-17
- ・クラシックとジャズの作曲家の年表(付録)

企画：高田涼子

# ビル・エヴァンス

Bill Evans 1929-1980



1929年8月16日、ニュージャージー州ブレインフィールドに生まれる。6歳でピアノ、7歳でフルート、8歳でヴァイオリンを習う。13歳の時に兄ハリーの代わりにバンドに参加し、閃きでブルース・コードをはさんで演奏したことからジャズ世界に入る。サウスイースタン・ルイジアナ・カレッジでピアノと音楽教育の学士号を得て、マナーズ音楽大学にて作曲を学ぶ。マイルス・デイビスのグループに籍を置くが半年で脱退し、自らのトリオで新しいサウンドを追求し続ける。1980年9月15日、出血性潰瘍、気管支炎、肝硬変で死去。享年51歳。

5ページ目に Biography あり。

## ビル・エヴァンスってどんな人？

- ・鼻歌のように気軽でなく、目的をもって試行錯誤し続けたので、演奏難易度は高い。ストイックな芸術肌だった。
- ・音楽家としては人々にたくさん影響を与えたが、人間としては謎の人で、世間の詮索には応えない人だった。
- ・ビルの好み: たばこは「キャメル」、飲み物はコカ・コーラ、肉の焼き加減はウェルダン。
- ・演奏するときの姿勢は、グレン・グールドがバッハを弾くときと似ている。
- ・共演者とは、密に長く深く交わり、サイドメンを滅多に替えなかった。
- ・流行歌が敬遠され取り上げられなかったポピュラー曲などを、レパトリーにしていた。自作曲は2割程度で、あとはポップでシンプルな曲が好み。
- ・ビル・エヴァンスの日本初来日は、1973年。麻薬常習犯としてブラックリストに載っていたため。
- ・死因は肝炎を放置しておいた為。身体中のあちこちに水腫ができ、左手は膨れ上がり鍵盤を押さえられるのが不思議なほどだった。

ビル・エヴァンスの音楽は、朝の目覚めた時、夜寝る時、疲れた時や落ち込んだときなど、いつでも聴ける音楽だと思います。シンプルで繊細、そして複雑に絡み合うハーモニーでありながら、どこか軽い。クラシックはハーモニーが重要で発展しましたが、ジャズはリズムが重視でした。ビル独自のサウンドは、ビバップのリズム構造を変えずに、フランス近代音楽のような根音のない和音を使って、色彩感豊かなハーモニーのジャズです。

- ・音楽家であり、思想家でもある彼の言葉を抜粋してみました。

## ビル・エヴァンスの言葉

「芸術一般に関する私の信条は、それが魂を豊かにするものでなければならぬということだ。自分自身の一部を再発見することはやさしい。だが、芸術を通して、人間は自分でもその存在すら知らなかった自分自身の一部を教えられるのだ。それこそ、芸術の真の使命というものだ。芸術家というものは、自分自身の中に普遍的な何かを見出さねばならないし、また、それを自分以外の人々にも通用する言葉に置き換えることのできる人間を言う。そして不思議なことに、芸術はこのことを人に、その人が気づかないうちに伝えることができるのである。豊かにすること、それこそ音楽の職務だ。」

「修練と自由は極めて繊細な形で混じり合わなければならない…。音楽はすべてロマンチックだと僕は信じるが、感傷的になりすぎるとは、ロマンチズムもわずらわしい。その一方で、修練をもって処理されたロマンチズムは、最も美しい類の美だ。」

- 自分のよくわかっていないものを演奏するよりも、シンプルな演奏をすることを好んだ。  
私がいなくてはいけないことは、音楽を大切にすることだけだ。  
脳天に届く衝撃を好み、十分衝撃を受けてようやく何かを感じる人々もいる。  
でもなかには内面に入って、何か、もしかしたら豊かさなどを探したい人々もいる。
- 苦勞して形になったものを僕は信用する。
- ジャズを知性的な法則で分析しようとする試みにはうんざりさせられる。  
そうではないんだ。感覚なんだ。
- 私はすべての人に「全世界共通の音楽的な心」と呼べるものがあると信じています。
- 多くのクラブはハウス・ピアノよりもゴミ箱に注意を払うものだ。

2歳年上の兄ハリーの代わりに12歳でダンス・バンドのピアニストを務めていた時に、  
「何となく閃いてブルース・コードをちょこっとはさんでみた。誰も考えつかなかった何かを音楽でやるって発想自体が、自分に全く新しい世界を拓いてくれたんだ」

マイリス・デイビス・グループを脱退した後、独自のサウンドを追及していたビル・エヴァンスは、ある天才ベーシストに出会った。彼こそが探していたサウンドを理解し共にプレイできる人だ！こうしてスコット・ラファロ(b)とポール・モチアン(ds)のレギュラー・トリオが結成された。ビル・エヴァンスに音楽スタイルや精神面に大きな影響を与えたラファロを紹介しよう。

## スコット・ラファロ (1936-1961)

17歳で初めてベースに触れ、イサカ音楽院で学んだあとバンドで演奏するようになる。1959年にはベニー・グッドマン楽団に参加するが、「ダウンビート」誌の新人部門第1位に選ばれ、秋にはビル・エヴァンス・トリオに参加。23歳。今までは、ドラムと同様にリズムを刻むだけのベースだったが、ラファロは、ピアノ/ベース/ドラムがそれぞれソロを演奏して、お互いに触発しあう「インタープレイ」と表現される演奏スタイルをして、ビル・エヴァンスに大きな影響をもたらす。



「スコットは、僕の次の考えが読める信じられないような奴だった。」 ビル・エヴァンス  
「僕たちが演奏に自由を発見したのは、スコットがいたからだ。彼のおかげで、やりたいことはいつもやれるという楽しさと希望があった。」 ポール・モチアン(ds)

ビル・エヴァンスはトリオに対する抱負をこう語っている。

「自分の出す音は、願わくばトリオから出すものは、唄わせたいんだ。自分がこの耳で聴きたいと思うものを弾きたい。唄うというあの素晴らしい感覚だけは絶対になくってはならない。」

このレギュラー・トリオは、まさに、ビル自身が「唄わせたい」と言っているような演奏だった。同トリオは、ラファロが自動車事故により25歳で死去したため、わずか1年半だけ活動し、アルバムは4枚しか残っていない。ラファロの死後、ビル・エヴァンスは数ヶ月間、ピアノを弾くことができませんでした。それほどビル・エヴァンスの音楽にとって大きな存在だったのです。

「それがどんなに自分を打ちのめしたか、自分でも咄嗟には気づかなかった。」

「音楽的に、何もかもが止まってしまったようだった。家でもピアノに触ろうとすらしなかった。」

## 作品

Bill Evans Doremi Music, 2000. <G28-231>

9枚のアルバムの愛奏曲の中から15曲を選んで採譜されているが、残念ながらアドリブの一部は省略されている。掲載楽譜は(Waltz for Debby)や(My foolish heart)、(ダニーボーイ)など。

定本ビル・エヴァンス / ジャズ批評編集部編 松坂, 2003. (ジャズ批評ボックス) <J99-383>

ビル・エヴァンスに熱い想いを抱いている人たちの様々な記事が掲載されている。季刊ジャズ批評別冊「ビル・エヴァンス」(1991年発行、絶版) <P765B 1991(2)>に掲載された記事を再構成したものである。年表、ディスコグラフィーが充実している。

Bill Evans / Peter Pettinger Yale University Press, c1998. <J91-431>

筆者はイギリス人でクラシック・ピアニスト。エヴァンスの大ファン

ビル・エヴァンス / ピーター・ペッティンガー著 水声社, 1999. <C64-460>

上記「Bill Evans」の翻訳本。Partが4つに分かれていて、.Birth of the Sound .The first trio,1958-61 On the Road,1961--77 The Last Trio,1977-80で構成されている。少し写真が追加されている。

ビル・エヴァンス / 日本たばこ産業株式会社アド企画室編 講談社, 1989. <C48-399>

ジャズ喫茶の店主他、ジャズ好きな人達の対話や記事が掲載されている。巻末にディスコグラフィーと年表あり。共演者索引、演奏曲索引も付いている。

ビル・エヴァンス 河出書房新社, 2001. (Kawade 夢ムック. 文藝別冊) <C65-552>

Bill Evans Trio. I & II / ビル・エヴァンス(Vintage jazz collection : Jazz 625)<VE686>

1965年3月19日イギリスのBBCテレビの番組「Jazz625」のシリーズの1つとして作成された。同資料がLDにもある。 VD3616 VD3624

The Universal Music of Bill Evans / ビル・エヴァンス

The creative process and self-teaching (Vintage jazz collection : Jazz 625)

兄ハリーとの対話、即興演奏もあり。 VD1817

A Tribute to Bill Evans / ゴードン・ベック(p) VD1286

ビル・エヴァンスの愛奏曲を演奏している。

### レギュラー・トリオでの演奏

Waltz for Debby / Bill Evans Trio <XD16575>

(My foolish heart)でフォークの音が聞こえます。耳を澄ましてじっくり聴いてみてください。

Explorations / Bill Evans Trio <XD21277>

### ソロの演奏

Alone / ビル・エヴァンス <XD21274>

### ハーモニカ奏者トゥーツ・シールマンズとの演奏

アフィニティ / ビル・エヴァンス <XD49022>

### マイルス・デイビス・グループにいた時の演奏

Kind of blue / マイルス・デイビス, ジョン・コルトレーン <XD14209>

### ギタリスト:ジム・ホールとの演奏

Undercurrent / Bill Evans & Jim Hall <XD16610>

\*ラファロの死後にビル・エヴァンスが立ち直れたのは、彼の存在が大きかった。

「1966年にパークリー音楽院に行ったんだけど、そのシステムで最初に習うサウンドをピアノでやるとエヴァンスになる。」 By.佐藤允彦

# Bill Evans Biography

(1929-1980)

西暦年	年齢		西暦年	年齢	
1929		ニュージャージー州に生まれる	1966	36	父ハリー・L・エヴァンス死亡
1935	6	ピアノを習い始める			初のホール・コンサート
1936	7	ヴァイオリンを習い始める	春		ゴメス(b)、アーノルド・ワイズ(ds)で ヴィレッジ・ヴァンガード出演
1941		フルート・ピッコロを習う	初秋	37	教育ビデオ「ユニバーサル・マインド・オブ・ ビル・エヴァンス」制作
1942	12	兄の代わりにバンドに参加	1968.6月		第2回モントルー・ジャズフェスティバル出演
1946	17	奨学金を得てサウスイースタン・ルイジアナ・カレッジ に入学	9月	38	初完全ソロ・アルバム「アローン」録音。グラミー賞獲得
1950	19	ピアノと音楽教育の学士号を得て同大学を卒業	1969. 10月	40	「フロム・レフト・トゥ・ライト」で初めてエレクトリック・ピアノ を弾く
1951	21	兵役につく(朝鮮戦争)	1971	41	全曲オリジナル「ザ・ビル・エヴァンス・アルバム」を レギュラー・トリオで録音。グラミー賞獲得
1954	24	除隊	1973.1月	43	初来日！最終日「ライブ・イン・トーキョー」録音
		3歳の姪デビーに「ワルツ・フォー・デビー」を作曲	春		12年連れ添ったエレインが自殺
1955	25	ジェリー・ウォルド楽団で初録音	8月		ネネット・ザザラと結婚
		NY83丁目に住む	1974.3月	44	2度目の来日
		マナーズ音楽大学で作曲を学ぶ	1975.9月	46	長男エヴァン誕生
1956	26	初リーダー作「ニュー・ジャズ・コンセプト」の録音	1976		ゴメス(b) & ジグムンド(ds)で3度目の来日
1957	27	「オール・アバウト・ロージー」で伝説的ソロ	1977	48	「ユー・マスト・ビリーブ・イン・スプリング」録音。 ゴメス脱退
1958.4月	28	マイルス・デイビス・グループに加入	1978.9月	49	ジョンソン(b)、ジョーンズ(ds)で4度目の来日
11月	29	マイルス・グループ脱退	1979.1月		ジョー・ラバーベラ(ds)加入。ラスト・トリオ誕生
		1958年度ダウンビート誌国際評論家投票新人賞 受賞	4月		兄ハリー・エヴァンス自殺
1959	30	スコット・ラファロ(b) & ボール・モチアン(ds)と 「ポートレイト・イン・ジャズ」を録音	8月		ラスト・スタジオ録音「ウィー・ウェイル・ミート・アゲイン」を 兄に捧ぐ
1961.2月	31	「エクスプロレーションズ」録音	秋	50	欧州ツアー
6月		ヴィレッジ・ヴァンガードに出演	1980.6月		ヴィレッジ・ヴァンガード出演をワーナーが録音
7月		スコット・ラファロ自動車事故死	8月	51	ラスト・レコーディング
	32	～スランプ～	9/11		演奏不可能となる
1962.4月		オリン・キーブニューズにレコーディングさせられるが 4曲でダウン	9/15		死去。死因は、出血性潰瘍、気管支肺炎、肝硬変
		ジム・ホール(g)と「アンダー・カレント」録音	9/19		セント・ピータース教会で葬儀
5月		チャック・イスラエルズ(b)加入			
1963	33	リヴァーサイドへの契約消化のため、ピアノ・ソロを録音			
		多重録音ソロ・アルバム録音			
1964	34	スタン・ゲッツ(ts)、エルヴィン・ジョーンズ(ds)らと レコーディング			
1965	35	BBC番組「ジャズ625」収録			



## ジャズ・ピアノの歴史

---

ジャズにおけるピアノの発展は、他の楽器とは異なります。ジャズの歴史 = ラップと言われますが、街頭での演奏を主としたブラスバンドではピアノが使われることがなかった為、独自の発展をしてきました。ジャズのスタイルが変わる時期は、戦争であったり、世界恐慌であったりと色々な背景があります。

ラグタイムという言葉はなじみが少ないかもしれませんが、曲を聴けば感じがつかめると思います。最近放送されているテレビ番組で「いきなり！黄金伝説～芸能人1ヶ月1万円生活」というのがありますが、その中で料理を作るときに流れている曲の1つがラグタイムです。元々は、あるドラマのサントラとして使われていたそうですが…。ラグタイムで有名な作曲家スコット・ジョプリンの〈エンターティナー〉は、映画「スティング」で使われて有名になりましたが、遊園地などでもよく軽快に流れています。某自動車メーカーの軽自動車 Lapin の CM では〈Pine Apple Rag〉が使用されています。

### 1900年代 ラグタイム Ragtime

ジャズ・ピアノのルーツと言われるラグタイムは、長い年月を経て、西洋音楽と黒人音楽が融合されて 19 世紀末に完成されました。黒人たちの歌がキリスト教と結びついてスピリチュアルズ(黒人霊歌)が生まれたように、1863 年の奴隷解放宣言以来、職業選択の自由を得て音楽家になった黒人は、アメリカ南部の故郷から太鼓のリズムや狩猟の歌などを持ちこんだのです。奴隷の息子であったスコット・ジョプリンもラグタイムの確立に大きく貢献をした一人です。ラグタイムのスタイルは、19 世紀ヨーロッパのロマン派のピアノ曲やブラスバンドのマーチの拍子、ケークウォーク(ドビュッシーの〈子供の領分〉で有名な舞曲)等の独特のシンコーペーションなど、様々な要素が混じり合って形成されていきました。当時の強迫弱拍とは常識はずれだったため、ラグ(ぼろ)タイムと呼ばれたそうです。初期のラグタイムは、譜面通りに演奏されていたのでクラシックに近いものでしたが、徐々にフィーリングと即興性を加えたジャズ的なものに変化していきました。

### 1910年代 ニューオーリンズ・ジャズ New Orleans Jazz

スペインとフランスが交互に統治していたルイジアナ地方の玄関口にあたる港町ニューオーリンズでは、あらゆる文化が混在していました。街の至る所に売春宿があり、黒人ピアニストが客引きのために演奏していたのがジャズです。ジェリー・ロール・モートンは、その区域で「先生」(Professor)と尊敬されていたそうです。彼は、ブルースを取り入れ演奏し、後に「これがジャズの始まり」と言っています。なんと“ジャズの創始者”と自ら名刺に書き、1902 年には「自分がジャズを発明した」と公言しました！が、実は彼より前にもジャズらしい演奏をしている人はいましたし、他人の曲もあくまで自分のコピーだと言い張ったりしていました。その結果、偉大な作曲家・ピアニストであるにもかかわらず、仲間や評論家から反感を買い、ホラ吹き扱いされてしまいました。

## ジャズの語源

ジャズを生み出したのは黒人たちでしたが、魅力のある音楽だと知った白人たちは真似を始めました。1951年頃、白人がバンド名に「ジャズ」を使ったのが最初です。ジャズの語源には様々な説があります。ジャズパーというプレイヤーの名が縮まってジャズになった説、フランス語の“jaser”（うわさ話をする）から来ている説、シカゴの酔っ払い客が“Jass it up”「一発やれ！」とバンドをあおって叫んだ説などなどです。



## 1910,20年代 ストライド/ブギウギ Strid/Boogie-woogie

クラシックの教養があったジェームス・P・ジョンソンは、ラグ的な奏法に複雑な和音を加え、単調だった左手の動きに変化をつけ、付点音符を使うことでスイング感を与え、力強く演奏しました。この奏法は、左手の動きからストライドと呼ばれました。彼のスタイルは、直々の愛弟子ファッツ・ウォーラーをはじめ、デューク・エリントン、アート・テイタム、更にはセロニアス・モンクにまで影響を及ぼしました。ファッツ・ウォーラーは、ジュリアード音楽院で高い音楽的素養とテクニックを身につけ、クラシックの高度な技巧をストライドに取り入れて4ビートの乗りを確立し、プライドを持って演奏しました。彼がニューヨークで活躍していた頃、シカゴでは、R&Bと合体し50年代のロックの要素となったブギウギが発生していました。このブギウギは、日本でも昭和の初め頃にブームになりました。ピアニスト/作曲家で有名な服部克久の父、服部良一は、日常会話を漫才のような言葉遊びに仕上げた日本オリジナルのブギウギを生み出しました。美空ひばりもジャズに憧れて(東京ブギウギ)を歌っているのは有名です。

## 日本にジャズが渡来したのは…

1919年、ミュージシャン井田一郎がアメリカ映画の伴奏のために海を渡り、帰国後にジャズバンドを結成したのが最初です。1927年12月、NHK「私の青空」で初めてジャズ・ソングが流れ、翌年には、レコードが発売されて徐々に広まっていきました。戦争中に敵性音楽が禁止されていた反動もあり、一気にジャズ・ブームが巻き起こりました。ただ、昭和20年代の約10年間は、スイング、ディキシー、ビバップ、ダンス音楽、アメリカーン・ポピュラー音楽がごちゃまぜで、ジャズとポピュラーの境目は感じられません。



## 1930年代 スイング・ジャズ Swing Jazz

一言で表すと、踊りだしたくなるようなサウンドです。ルイ・アームストロングらにより始められた即興プレイ。白人クラリネット奏者のベニー・グッドマンが1938年にクラシック音楽の殿堂カーネギー・ホールに出演し、スイング・ブームは頂点に達しました。スイング時代には多くの名ビッグ・バンドやコンボが誕生し、デューク・エリントン、ベニー・グッドマン、カウントベイシー楽団、グレン・ミラー楽団などが、それぞれの個性を競い合いました。今までのジャズ・スタイルは一人でメロディー、ハーモニー、リズムを演奏していたため、左手は規則的なリズムを刻んでいましたが、アール・ハインズはクラリネット的な長いシングル・トーンによるフレーズを生み出し、一躍ピアノをバンドの花形楽器にするという革命をもたらし、スイング・スタイルを作り上げました。スイング・ジャズの全盛期には、テディ・ウィルソンやアート・テイタムが活躍しました。彼らの演奏は、ブルース感覚が薄く、テクニックは抜群に優れていて、当時の黒人では珍しいピアニストです。



## 1940年代 ビバップ Be-Bop

1940年代のはじめ、ビッグ・バンドでのプレイに飽き足らなくなったデューク・エリントン、バド・パウエルなどの若いミュージシャンたちが、より即興演奏を求め、アイデアを交換し合って生まれたのがビバップです。ビバップは、ハーレムのジャム・セッションの中から生み出されたと言われていています。特徴は、メロディー・ラインの急速な飛躍と、神経質なまでに刺激的な性急さ、乗りやすいリズムで抽象的なアドリブと、めまぐるしいまでに細分化されたコード・チェンジで、より細かなフレーズをスピーディーに歌い上げていく点です。このビバップ以降、ジャズは不動の人気を確立します。

## 1940,50年代 クール・ジャズ Cool Jazz

クールとは特定の演奏スタイルではなく、演奏者がそれぞれ色々な意味で勝手に呼んでいただけなので、(観客はそう呼んでいませんでした)曖昧な使われ方がされていますが、簡単に説明するとしたら、フレーズがより長くなり、半音が多用されているために調性が明確にならない、抽象的なサウンドです。雰囲気のカッコ良さや、知的さなどが感じられるため、クール・ジャズと表現していました。ビバップの野性的な演奏に対し、クール・ジャズは知的で内省的な響きをもっていて、白人ミュージシャンを中心にごく自然な形で生み出されてきました。ビバップが動であるとするならば、クール・ジャズは静であり、落ち着いた感じで極めてバランスのとれた、透明感あふれる美しい音楽です。

## 1960年代 フリー・ジャズ Free Jazz

今までの調性という考え方をせず、より自由で個性的な即興プレイの可能性を追求したのが、フリー・ジャズです。これまでの人種問題に対する怒りや、ベトナム戦争の激化などによる社会的な反発が過激になってきた時代です。ジャズ・スタイルも追いかけるように無調性で自己主張をしました。型破りなスタイルなので、理解しにくい感もあります。少々クラシックの現代音楽と共通しているかもしれません。

## 1970年代 フュージョン Fusion

当初はクロスオーバーとも呼ばれていました。R & B ~ ファンク、ロックなどの音楽から大きな影響を受けています。新しい感覚を自分の表現にしようとした、好奇心豊かなチック・コリア、ハービー・ハンコックなどのプレイヤーたちは、エレクトロニックなサウンドを多用し、ポピュラーのメロディーを使い、あらゆるものを融合し、求め続けました。それゆえフュージョンはアレンジャーも重要な役割を果たします。



## ジャズ・ピアニストの紹介

### スコット・ジョプリン(1868-1917)

Scott Joplin. 1868年11月24日、アメリカのテキサス州・テキサス・カナで生まれる。奴隷の息子で、音楽好きの父親の影響を受け、独学でピアノを勉強する。売春宿のパーラーでラグタイムを演奏する。晩年は、ラグタイム・オペラを手がけ、クラシック・コンポーザーとしても活躍するが、病気で衰弱し1917年4月に逝去。1970年代にラグタイム・ブームが起こり、映画『スティング』でジョプリンの音楽が使用された。



### 作品

Collected Piano Works / Scott Joplin The New York Public Library, 1971 <G15-852>  
題名の通り、スコット・ジョプリンの Rag Time 全曲が収められている。映画『スティング』で使われて有名になった(エンターティナー)他、某自動車メーカーの軽自動車 Lapin の CM で流れている(Pine Apple Rag)もある。

Noctuary / Richard Rodney Bennett Novello Publishing, c1992. <G29-153>  
Scott Joplin の(Solace)をテーマに Richard Rodney Bennett が書いた変奏曲。

みんなのピアノれんだん 13 / スコット・ジョプリン名曲集 ヤマハ音楽振興会, 1994. <G25-424>

### ピアノ曲以外

- ・ Scott Joplin's Treemonisha / Vera Brodsky Lawrence. <F18-634>  
ラグタイム・オペラを手がけている。
- ・ Ragtime for chamber ensemble(Strings, winds or mixed) <H33-823>  
金管楽器アンサンブルに編曲されている。

Happy Birthday の曲とエンターティナーをミックスした作品もある。

- ・ Happy birthday dear Eliza / Beethoven & Scott Joplin. <G22-910>



Original piano rolls, 1899, 1916 / Scott Joplin  
自作自演のピアノ・ロール <XD7621>  
Rag time cembalo / 中野振一郎  
チェンバロでの珍しいラグタイム演奏 <XD28952>  
Piano Rags <XD18103>  
リフキン・ジョシュア(p) オリジナルとはまた一味違う曲に聞こえる。  
ジャーマン・プラス・デビュー <XD5130>  
バッハなどを演奏するグループがラグタイムを演奏している。

---

スコット・ジョプリン(メイプルリーフラグ)楽譜の表紙

## ジェリー・ロール・モートン(1885-1941)

Jelly Roll Morton, ニューオーリンズ生まれのクレオール。自称“ジャズの創始者”と自ら名刺に書き、1902年には「自分がジャズを発明した」と公言した。G7などコード記号の発明者であり、また歴史上初めて白人黒人混血で録音した人でもある。様々な楽器を演奏したが、最後はピアノに落ち着く。晩年は、偉大な作曲家・ピアニストであるにもかかわらず、仲間や評論家から反感を買い、ホラ吹き扱いされてしまう。



クレオールとは、白人と黒人の混血のこと。スペインとフランスが交互に統治していたルイジアナ地方の玄関口にあたる港町ニューオーリンズでは、あらゆる文化が混在していた。

### 作品

Jelly's blues / Howard Reich and William Gaines Da Capo, c2003. <J93-586>  
ジェリー・ロール・モートンの人生と音楽について書かれている。真ん中に写真あり。モートンの家族の写真、シカゴでのバンド仲間レッド・ホット・ペッパーとビクターでのレコーディングの様子、モートンのサインや名刺、最後に住んでいた家、遺言書、死亡証明書など。

Dead man blues / Phil Pastras University of California Press, <J100-121>  
ジェリー・ロール・モートンの生涯が書かれている。メキシコで働くためのビザの写真、ライブのフレイヤー、Harlem-The Crescendo Club in NY、切抜帳、新聞記事、バンダービルドクリニックの予約表、結婚契約書。他、上記の本「Jelly's Blue」の中の写真と重複している。

The collected piano music Smithsonian Institution Press : G. Schirmer, c1982 <G16-299>  
映画「海の上のピアニスト」のピアノ決闘シーンで弾いた曲(The Crave) (Finger Buster) などブルース要素が強い作品が多い。

Blues and rags from piano roll, 1924/25 / Jelly Roll Morton <XD5130>  
ピアノ・ロールから録音した自作自演のCD。残念ながら、「海の上のピアニスト」で演奏した曲は収められていない。

### 映画「海の上のピアニスト」 <VB2840>

映画自体の音楽担当は映画音楽界の巨匠、エンリオ・モリコーネですが、スコット・ジョブリンやジェリー・ロール・モートンの曲が出てくるので、どの場面で何の曲が演奏されているかを簡単にまとめてみました。主人公1900がジェリー・ロール・モートンとピアノ対決するシーンは必見！

TIME	SCENE	MUSIC TITLE
0:22	1900 が 8 歳の時に初めてバンドピアノを聞く	(Peacherine Rag) Scott Joplin
0:37	27 歳、バンドピアノから暴走 JAZZ	
0:41	タランテラのリズムを聞いただけで、即興でメロディーを付け作曲演奏する	
0:46	アコーディオンおじさんと話しながら心行くままにBGM = アドリブ演奏	
0:49	ある特定の人物の生い立ちや性格などを勝手に創造しながら溢れる音楽 = 創造音楽	
0:55	ある日突然「10 種類以上のJAZZを弾く男か？」とバンドマンが訪れピアノの決闘を申し込まれる	1 曲目 (?) VS (きよしこの夜)
	Jelly Roll Morton登場！売春宿のピアノ弾きと説明される。	2 曲目 (The Crave) VS (同曲) 3 曲目 (Finger Buster) VS (4手?)
1:15	LP にレコーディング	(愛を奏でて) by.エンリオ・モリコーネ

## セロニアス・モンク(1917-1982)

Thelonious Monk. ノース・キャロライナ州ロッキー・マウントのレッド・ロウで生まれた。1923 年にはニューヨークに引越し、生粋のニュー Yorker として育つ。ストライド奏法に魅了され、11 歳で近くの音楽院で音楽理論を学ぶ。教会でオルガンを弾いたり、パーティーで演奏するようになり、ミュージシャンを目指す。ブルーノートの専属アーティストとして活躍。奇行のエピソードがある。取材や打ち合わせに遅刻をするのは当たり前で、リハーサルには顔を出さない。そして本番中に舞台を歩き回っていたらしい。ノっている証拠なのだから。1982 年 2 月 17 日、脳出血を起こして世を去る。享年 64 歳。



### 作品

セロニアス・モンク ローラン・ド・ウィルド著、水野雅司訳  
音楽之友社、1997。<C62-271>

Laurent de Wilde:MONK(L Arpenteur, Gallimard, 1996)の全訳。  
モンクの生涯がユニークに書かれている。

Thelonious Monk / [selected and edited] by Stuart Isacoff  
Amsco Publications, 1987, c1978 <G22-399>

Thelonious Monk '63 in Japan / セロニアス・モンク <VD1715>

## チック・コリア(1941-)

Chick Corea. 1941 年 6 月 12 日、マサチューセッツ州チェルシーで生まれる。本名はアーマンド・アンソニー・コリア。チックとは、“ひよこ”とか子供の愛称で、彼の子供っぽい性格や体型からつけられたらしい。父親がスパニッシュの血を引くイタリアン・ジャズ・ミュージシャン。6 歳からピアノを弾き始め、21 歳でラテン・バンドに参加。マイルス・デイビスのバンドに参加。ソロも素晴らしいが、フリードリヒ・グルダとのモーツァルトのデュオ演奏や、ボビー・マクファーンリン(vo)など数多くのジャズメン達との共演で活躍中。



### 作品

チック・コリアの音楽 / 山下邦彦著 音楽之友社、1995。<C59-848>

チック・コリアが使うコード・モード理論を解説。ロドリーゴの(アレンフェス協奏曲)のメロディーを使った(Spain)などの自筆譜もある。

Chick Corea for piano solo / arranged by Chick Corea Schott, c1996 <G26-597>  
(スペイン)などが掲載されている。

Rendezvous in New York / チック・コリア。 VE554

チック・コリアの 60 歳のお祝いに、ブルー・ノートで 3 週間に渡りライブを行った。

## キース・ジャレット(1945-)

Keith Jarrett. 1945年5月8日ペンシルヴァニア州アレンタウンで、ドイツ人の血を引く父とハンガリーの血を継いだ母の間に生まれる。3歳の時からピアノを始め、同時にドラムとヴァイヴも学ぶ。7歳で初めてのソロ・コンサートを開く。パークリー音楽院に通い、ニューヨークに進出。マイルス・デイヴィス・グループに1年半在籍。ソロ・インプロヴィゼーションは高く評価されている。キース・ジャレット・トリオも名高いが、クラシックの録音もたくさんある。2003年、王立スウェーデン音楽アカデミーが定めるポラー音楽賞の受賞者に選ばれた。



### 作品

キース・ジャレット 音楽のすべてを語る / キース・ジャレット(述) 立東社,1989.<C48-565>  
1988年11月1日から11月4日の4日間にわたる自宅でのインタビューが写真付きでまとめられている。ピアノ・トランスクリプション(楽譜)も掲載されていて、巻末には、ディスコグラフィ、往復書簡、引用文献リスト、インデックスがある。

Keith Jarrett / by Yasutoshi Inamori. Vol 1. Chuo Art Publishing <G21-983>  
完全コピー・シリーズ2. 「Standards vol.1」「Standards vol.2」「星影のステラ」の3枚のレコードより曲を厳選して採譜し分析してある。

The Koln concert / Keith Jarrett Schott, 1991.<G23-181>  
ケルン・コンサートの演奏を忠実に採譜。

Standards vol.1 / キース・ジャレット<XD19764>

Standards vol.2 / キース・ジャレット<XD1069>

Standards / キース・ジャレット<VD3557>

Standards / キース・ジャレット<VD3556>



スコット・ジョプリン(エンターティナー) 楽譜表紙

## その他のピアニストの資料紹介

### 山下洋輔

ピアニストを笑え! / 山下洋輔 昌文社, 1976. <C29-082>

山下洋輔2作目のエッセイ集。山下洋輔トリオが初めてヨーロッパに乗り込んだ時の話。

ドオン! / 山下洋輔 福音館書店, 2002. <J101-511>

インスピレーションが沸いてきそうな文章に、かわいいイラストがついている絵本。

Sakura / 山下洋輔 <XD26879>

(さくら) や(七夕) など、日本の曲をアレンジ

### ファッツ・ウォーラー

9 refrains populaires d'Amerique / interpretes a la maniere moderne

Salabert, c1938. <G23-134>

ファッツ・ウォーラーのアレンジ楽譜。

### ナット・キング・コール

Nat "King" Cole Creative Concepts, c1978 . <F22-132>

弾き語り用に歌詞が掲載されていて、ピアノ伴奏付。缶コーヒー「BOSS」のCMで使われている曲(L-O-V-E)の楽譜も。他にも、娘のナタリー・コールがカバーして歌っているの、なじみがある曲が多いはず。

コンプリート・アフター・ミッドナイト / ナット・キング・コール <XD13899>

### バッド・パウエル

Bud Powell / [edited] by Clifford Jay Safane

Consolidated Music Publishers, c1978. <G22-440>

### ジョージ・ガーシュウィン

Gershwin jazz interpretations Warner Bros, [1983?]. <G24-766>

## クラシック作曲家がラグタイムやジャズを作曲している。

ラグタイム / イゴール・ストラヴィンスキー Zen-on Music, [1975?] c1920 <G16-401>

(春の祭典)でもおなじみのストラヴィンスキーが、ラグタイムを作曲している。

Ragtime / ストラヴィンスキー <XD35012>

Tahiti trot ; Suite no.1 for jazz orchestra / ショスタコーヴィッチ

ジャズのスタンダード・ナンバー(Tea For Two 二人でお茶を)を1時間以内にオーケストラレーションするよう依頼され、40分の楽曲に仕上げた(Tahiti tarot)がある。バレエ音楽(黄金時代)の第3幕にも引用されている。他(ジャズ組曲第1番)。 Zen-On Music, 1997 <E13-572>

Suite for variety stage orchestra / ショスタコーヴィッチ Zen-On Music, 2003

<E14-125>

(ジャズ組曲第1番)に続き、(ジャズ組曲第2番)と(ステージ・オーケストラのための組曲)

JAZZ MUSIC / ストラヴィンスキー <XD30665>

(ジャズ組曲第1番と第2番)(Tahiti tarot)が演奏されている。

Piano sonata no. 9, op. 78 / ニコライ・カプスーチン Tri-M, 2002 <G29-181>

## 弾きやすい JAZZY なピアノ楽譜紹介 ジャズに触れてみよう!

子供向けの教則本・連弾ノクラシックやポピュラーのアレンジ楽譜など  
先生と生徒のれんだんコンサート. Vol. 8, こどものジャズ名曲集

ヤマハミュージックメディア, 1998. <G27-544>

ジャズスタイル・ピアノ曲集 / ギロック 全音楽譜出版社, 1997 <G26-906>

Jazz & blues / David Kraehenbuehl Summy-Birchard, c1963 <G13-308>

Microjazz piano duets / Christopher Norton Boosey & Hawkes, c1984. <G19-714>

クラッシー・ジャズ・ポケット / グレンダ・オースティン 全音楽譜出版社, 1998. <G29-790>

ピアノ・アゲイン / 編・著 HIROSHI ~ 吉田洋 ショパン, 1996. <G26-218>

Jazz piano Beatles Shinko Music, 1992. <G28-168>

Beyer in jazz YAMAHA Music Media, 1996. <G29-225>

Bach in jazz YAMAHA Music Media, c1994. <G29-224>

Mozart in jazz YAMAHA Music Media, 1997. <G29-230>

Chopin in jazz YAMAHA Music Media, 1994. <G25-234>

Disney in jazz. vol. 1 / 編曲 藤井英一 YAMAHA Music Foundation, 1992. <G24-151>

Disney in jazz. vol. 2 / 編曲 藤井英一 YAMAHA Music Foundation, 1992. <G24-152>

Famous classic in jazz / 編曲 藤井英一 YAMAHA Music Foundation, 2003. <G29-395>

中島みゆき作品集 / 編曲 神山純一 Edition Kawai, 1993. <G29-457>

日本のうた / 坂元輝編・著 中央アート出版社, 1989. <G22-750>

ジャズ風クラシック / 野呂芳文編 ドレミ楽譜出版社, 2002. <G29-278>

Blue classic.1 / 編曲 稲森康利 中央アート出版社, 2003 <G29-657>

・ Blue classic : 2 巻 <G29-658> , 3 巻 <G29-691> , 4 巻 <G29-699>



### 初心者向けの CD 付楽譜などを紹介

テルさんのすべての楽器に使えるジャズ・アドリブ・ワークブック / 坂元輝著

音楽之友社, [1980](Jazz masters series ; v. 7-8) <H21-692>

テルさんのジャズ・ピアノ・ワークブック / 坂元輝著

音楽之友社, [1979] (Jazz masters series ; v. 5-6) <G11-403>

プレイ・ザ・ジャズ・ピアノ. Vol.1 / 稲森康利編・著

中央アート出版社, 1991.(キャップ CD シリーズ ; 4. コンテンポラリー・ジャズ・シリーズ) C54-984

ジャズピアノのコード進行基本の基本 川島茂著 中央アート出版社, 2003. <J98-851>

ジャズピアノのコード進行基本の応用 <J98-934>

モダン・ジャズ・ピアノ・レッスン. v.1 中島久恵著 ドレミ楽譜出版社, 2002. <J97-406>

モダン・ジャズ・ピアノ・レッスン. v.2. <J98-256>

ジャズ・ピアノ First Step 稲森康利著 中央アート出版社, 2001. <J96-348>

ザ・ジャズ・ピアノ. 上巻 小谷教夫編著. 改訂新版

CD 付 リットーミュージック, 1998.(ジャズ・マスター・シリーズ) <C65-617>

はじめてのジャズ・ピアノ・トリオ. カラオケ CD 強化編 / 宮前幸弘著

リットーミュージック, 2003. <J100-747>

### ジャズ・スタンダード曲

Jazz piano solo collection. [1] / by Norihiko Wada

Doremi Music, 1992.(Piano solo library) <G24-146>

Jazz piano YAMAHA Music Foundation, 1993. <G25-407>

Act in jazz Tokyo. <G20-567>

Cookin' jazz. Vol. 1, Stella by starlight ; Cleopatra's dream

いわゆるスタンダード・ジャズ YAMAHA Music Foundation, 1992. <G23-708>

・ vol. 2 <G23-709> , vol. 3 <G23-710> , vol. 4 <G23-711> ,

vol. 5 <G23-712> , vol. 6 <G23-713> , vol. 7 <G23-714> ,

vol. 8 <G23-715> , vol. 9 <G23-716> , vol. 10 <G23-717>



## ジャズ・ピアノに関する本の紹介

ジャズ・ピアノの歴史 / ビリー・テイラー著 音楽之友社, 1986. <C21-003>

著者自身がジャズピアニスト奏者ビリー・テイラー。歴史と共に、スタイルごとに曲の構成特徴などを説明。譜例付。巻末には、ジャズピアニスト一覧があり、時代・場所・スタイルに分けられている。

ジャズの歴史 / 油井正一著 東京創元社, 1957. <C31-055>

雑誌「ミュージック・ライフ」に掲載。主にトランペットやホルネットの演奏者について。

ジャズ・ピアノ / 油井正一 新潮社, 1989. <C48-217>

ジャズ・ピアノの推薦盤 309 枚を解説している。40 年以前、40 年代～50 年代、60 年代、トゥデイ & トゥモロウの4つに分かれていて、そこから人別に紹介。

映画とジャズ / 和田誠編著 ビクター音楽産業, 1992. <C56-973>

ラグタイム、ニューオーリンズ、ジャズの語源について。どの映画で誰が何を弾いたか。写真付。コレクションにポスター・ジャケット・ロビイカードあり。公開題名/原題、年、監督、主演、音楽監督、主題歌、主題歌の歌手(演奏者)登場ジャズメンの一覧。

ジャズ・ピアノ決定盤 / 佐藤秀樹著 音楽之友社, 1994. <C59-198>

70 人の個性派ピアニストの解説と伝記。一人あたり2～3ページ。

JAZZ ものしり雑学事典 / 岩浪洋三監修 スイングジャーナル社, 1987. <C61-565>

昭和 62 年スイングジャーナルの別冊。少々古いが、内容はタイトルの通り雑学であふれていて読みやすい。CD のうんちく講座もある。なんでも No.1 編も。また、JAZZ 用語、基礎知識音楽用語の説明もわかりやすい。インデックスあり。

ポートレート・イン・ジャズ & ポートレート・イン・ジャズ / 和田誠・村上春樹

和田誠の絵に村上春樹がエッセイをつけた。97 年に開かれた SING という展覧会で 20 人が取り上げられ、本誌は 6 人追加の 26 人が LP 盤と共に紹介されている。同名タイトルのアルバムがビル・エヴァンス・トリオの代表作としてある。エッセイを書いた村上春樹氏もジャズ好きで、著書「ノルウェイの森」の中でもビル・エヴァンスが出てくる。

ポートレート・イン・ジャズ: 新潮社, 1997. <C62-407>

ポートレート・イン・ジャズ. 2: 新潮社, 2001. <C65-630>

実用ジャズ講座. 2, アレンジ編 北川祐編 リットーミュージック, 1986. <J65-822>

装飾音・リズムやフレーズの作成・コードのアプローチが音楽理論と共に譜例つきで解説されている。

クイズ音楽!常識!非常識? ジャズ編 / 齋藤實著 ヤマハミュージックメディア, 2002 <J97-407>

名前の通り、クイズ形式の読み物。200 問ある。3 択から答を選び、解説がある。例えば、ビル・エヴァンスの「ワルツ・フォー・デビイ」のデビイは誰? など。最後に ×クイズもあるのでチャレンジしてはいかが? 200 問のアイテムのアルバム紹介リストもついている。ジャズ・スタイルの変遷が 1900s ラグタイム時代から横棒グラフで表になっている。

なんちゃってジャズ・ピアノ / 斉藤修著 リットーミュージック, 2003. <J100-746>

難しい理論や理屈抜きに、誰もが知っている元になるメロディーに続いて和音を付けたりメロディーに音を増やしてリズムを変えてアレンジしたりと簡単にカッコよくジャジーに弾けるように工夫されている。CD 付なので確認しながら演奏できる。(AVE MARIA), (世界に一つだけの花), (ルパン三世のテーマ) などがある。

ジャズ・ピアノ入門 ジャズ批評編集部編 松坂, 2000. (ジャズ批評ボックス) <C64-940>

巻頭に、ピアニスト・ギャラリーが6つの PART ごとにジャケット紹介されている。簡単にジャズの歴史が書かれている。182 人のジャズ・ピアニストを、アルファベット順に16人の執筆者が個別にガイドしている。



やさしいジャズ・ピアノ講座 / 西直樹著 日音, 1993. <C57-618>  
(A 列車で行こう) (サテン・ドール) (オン・グリーン) の3曲を取り上げ、主題の弾き方、アドリブ、コードとスケールについての理論を譜例付きで説明している。

Jazz リクエスト・ノート / 寺島靖国著 講談社, 1989. <C48-401>  
「ジャズの聴き方に法則はない」という筆者が名盤を語る。巻末に、「ピアノ・トリオを聴く40枚」「ソロ・ピアノ愛聴盤8枚」などが紹介されている。

ジャズ・ヒーローズ・イン・ジャパン / 米田泰久写真 共同通信社, 1996. <C61-195>  
1966年-1996年来日ジャズメンの写真。日本と寄り添ったジャズ100選アルバムも列挙されている。

辛口 jazz ノート / 寺島靖国著 日本文芸社, 1987. <J65-772>

ジャズ・ピアノ・トリオ名曲名盤 スイングジャーナル社, 1994. <C58-725>

ジャズ100年史 / ロイ・カー著 パーン・コーポレーション, 1999. <C63-799>



## ジャズに関する雑誌

ジャズ批評 <P0765>

1967年から現在まで。最新号は雑誌コーナーにある。

ジャズ・ライフ <P1295>

1977年から。最新号は雑誌コーナー。

スイング・ジャーナル <P663>

最新号は雑誌コーナー。

Jazz <P840>

1969-77。

Jazz magazine <P761>

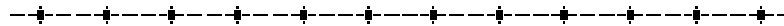
1977-78。上記の雑誌 JAZZ の継続後誌。

Keyboard magazine <P819>

今まではロック系が多かったが、最近はジャズも取り上げられるようになった。

Piano style <P5431>

Vol.1-vol.4 はムックとして図書で発売されていたが、vol.5からは季刊雑誌で刊行されることになった。譜例もついてるし、解説も楽しめる。



### ミニコメント<豆知識>

OPACで資料を探すときは、姓名の順で入力しましょう。  
Bill Evans Evans Bill(または、エヴァンス ビル)。  
また、ジャズに関する資料は、タイトルに「ジャズ」と  
入力してフレーズ検索するか、件名に「ジャズ」と入力  
するのも有効です。

## ジャズに関係のあるお薦め AV 資料

---

### DVD/ビデオ/レーザーディスク

Bach to Bach / ジャック・ルーシエ <VD2294>

バッハをジャズにアレンジ。

山下洋輔のジャズの掟(オキテ) ~ アドリブ入門1週間 ~ <VB2559>

Celle(カジェ)54<VE678>

マンハッタン54丁目のラテン・ジャズ・ドキュメンタリー!

Take the "A" train / 木住野佳子<VE161>

スウィング・バッハ(バッハ没後 250 年祭)

ボビー・マクファーリンとジャック・ルーシエの夢の初共演! <VE540>

Piano Legends(巨人たちの遺産 ピアノ・レジェンド)<VD1288>

Sacret story / パット・メセニー <VE687>

映画「グレン・ミラー物語」<VE504>

映画「ベニー・グッドマン物語」

テディ・ウィルソン(P)他大勢のゲスト・ミュージシャン登場。<VE505>

### CD

The art of the trio. Vol. three, Songs / ブラッド・メルドー <XD41727>

Solo, live in New York / チューチョ・バルデス <XD49944>

Vocal classics & instrumental classics/ナット・キング・コール・トリオ <XD17118>

Digital Duke / デューク・エリントン <XD4019>

(A 列車で行こう)は何回聴いても飽きない。

Modern jazz piano <XD16351>

ROKOKO JAZZ / オイゲン・キケロ <XD53375>

ROKOKO JAZZ / オイゲン・キケロ <XD53460>

(キラキラ星変奏曲)など楽しいアレンジ

Dear Oscar / 小曾根 真 <XD41730>

Mr. Wilson / テディ・ウィルソン <XD30623>

This is Bobby Timmons / ボビー・ティモンズ <XD30623>

Moanin +1 / アート・レイキー <XD30623>

G 線上のアリア / ジャック・ルーシエ <XD2689>

Autumn in seattle 西城秋色 / 山本剛 <XD53461>

(サウンド・オブ・ミュージック・メドレー)が面白い

ノルウェーの森 / ヨーロピアン・ジャズ <XD13796>

ジャズ・スタンダード・ナンバー曲集

哀愁のヨーロッパ / ヨーロピアン・ジャズ <XD53450>

幻想のアダージョ / ヨーロピアン・ジャズ <XD53451>

天空のソナタ / ヨーロピアン・ジャズ <XD53452>

Voice / 中本マリ <XD15635>

ピアノ伴奏の本田竹曠は国立音大の卒業生

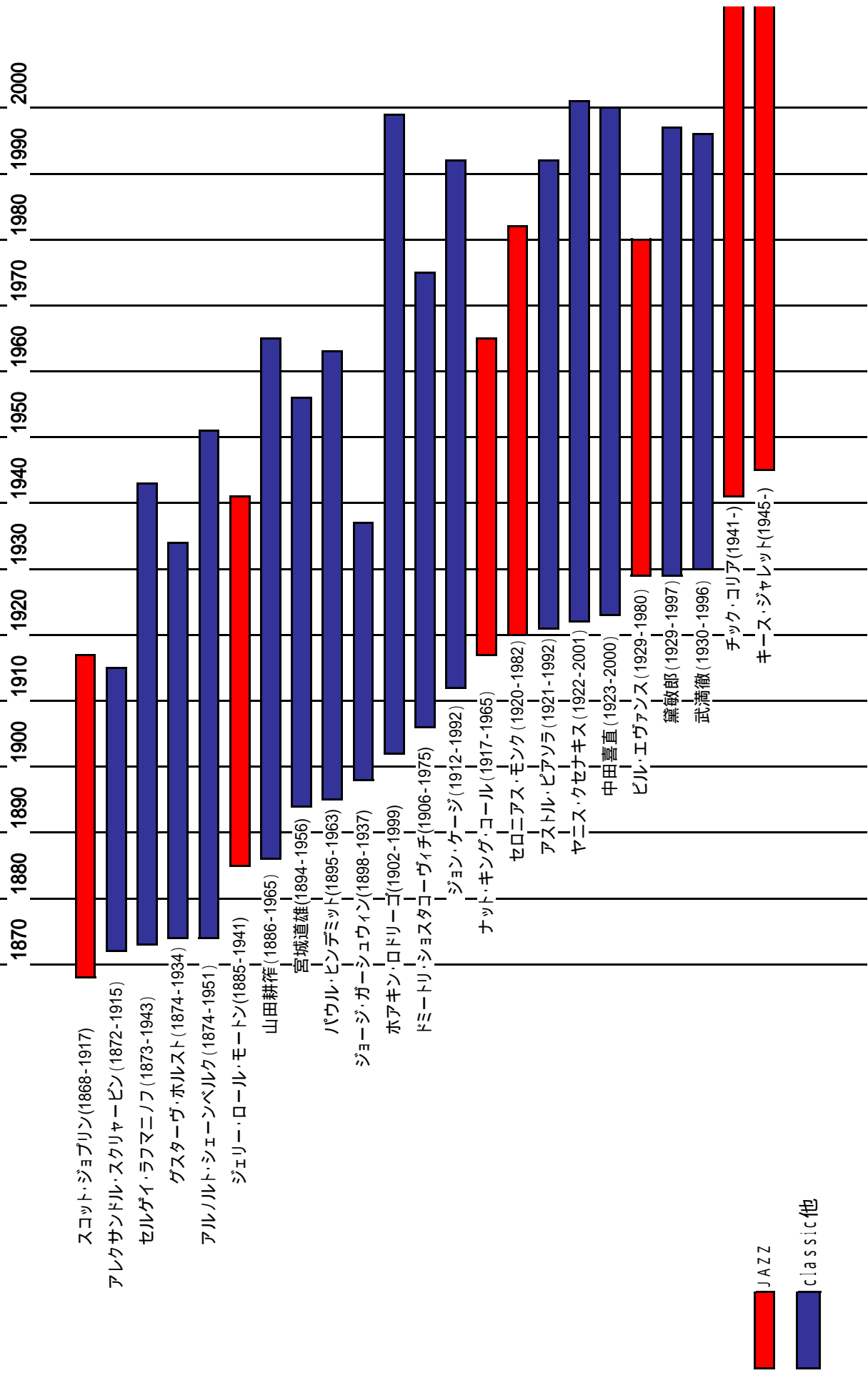
ノルウェーの森 / 長谷川陽子・ブルース・スターク <XD41357>

(ワルツ・フォー・デビー)をチェロで演奏している。ブルース・スタークの編曲も面白い。

try try try / 小原孝 <XD41691>

(As time goes by)は映画「カサブランカ」で黒人ピアニストのサムが弾いている。

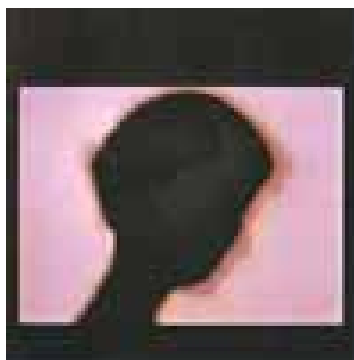
# JAZZとCLASSICの作曲家の年表比較



JAZZ

Classic

図書館展示 2004.7.7-8.4



ビル・エヴァンスを入りに  
ジャズ・ピアノを楽しもう!

国立音楽大学附属図書館 2004.7.7  
編集 広報委員会(染谷周子・高田涼子)